

使用器具

a. 表面反射ミラー (図 16-2A, B)

一般的な歯科用ミラーを使用すると画像が二重となるため、顕微鏡使用時はガラス表面に特殊な処理がなされているミラーを使用する。

b. マイクロミラー (レトロミラー) (図 16-2B)

根尖切除法などのマイクロサージェリー時に使用する極小のミラー。

c. レトロチップ (p.111 図 13-4D)

顕微鏡使用時に用いる超音波チップ。逆根管充填時の窩洞形成や、逆窩洞形成部の根管充填材の除去に使用する。

d. マイクロデブライダー (顕微鏡用ファイル) (図 16-2C)

根管治療時、視野を妨げないために使用する把柄部付きファイル。

e. スクレイパー (図 16-2D, E)

根管内異物や根管壁の汚れを掻き出す。



第二小白歯は表面反射ミラーにて、第二大臼歯は歯科用ミラーにて観察している。歯科用ミラーの場合、ミラーに写る第二大臼歯像の輪郭は二重になっているのがわかる

図 16-2 A 表面反射ミラーと歯科用ミラー



図 16-2 B 表面反射ミラーとマイクロミラー



図 16-2 C マイクロデブライダー

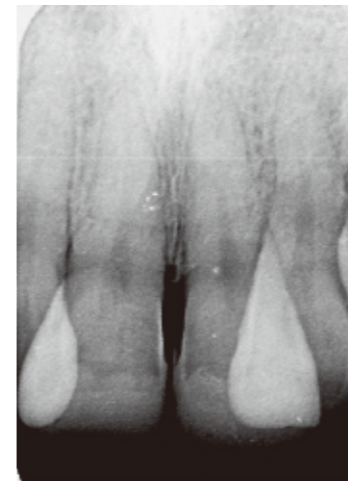


図 16-2 D スクレイパー



図 16-2 E スクレイパーの先端部

- ・ 歯根破折の確認 (図 16-3G)
- ・ 歯根吸収の確認：内部吸収 (図 16-3H), 外部吸収 (図 16-3I)
- ・ 穿孔の確認 (図 16-3D, J)
- ・ 根管内破折器具の位置, 長さの確認
- ・ 歯槽骨の開窓 (フェネストレーション) (図 16-3D, K)
- ・ 外科的歯内療法前の診断



37歳の男性。上顎右側中切歯根尖部に明らかな所見は認めない

図 16-3 A デンタルエックス線写真

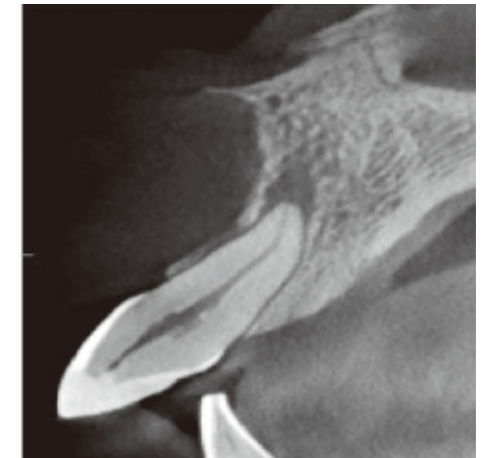


写真 A の症例を歯科用コーンビーム CT で撮影すると、根尖部は頬側方向に彎曲し、根尖病変も認める

図 16-3 B 歯科用コーンビーム CT



72歳の女性。上顎左側側切歯に根尖部透過像を認める。根管充填材は根尖部まで充填されているように思われる

図 16-3 C デンタルエックス線写真

(歯科国試 110B-15)



写真 C の歯科用コーンビーム CT 所見では、根管充填材の先端部は根尖部で穿孔しており、唇側の皮質骨は断裂している

図 16-3 D 歯科用コーンビーム CT

(歯科国試 110B-15)

B 歯科用コーンビーム CT

特徴

歯科用コーンビーム CT は、任意のスライス画像が得られることに加えて、複数の方向からも観察することが可能である。そのため、従来の口内法エックス線検査やパノラマエックス線検査では詳細な診断が困難な症例を、高い精度で正確に診断できる (図 16-3A~D)。また、医用 CT に比べ、照射野が小さいことから、被曝線量がきわめて少ないことも特徴としてあげられる。

適応症

- ・ 根管数の確認
- ・ 根管の彎曲方向の確認 (図 16-3B)
- ・ 未探索根管の発見 (図 16-3E)
- ・ 根管内石灰化物の確認
- ・ 根尖病変 (根尖部の骨破壊程度) および分岐部病変の範囲, 状況 (図 16-3B, F)